

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.89をお届けいたします。

YouTube



FMD
OWNER'S CLUB



3月のTOPICS

■ 認知機能低下の予測因子として FMD 測定が重要

今号では認知機能と血管内皮機能について取り上げたいと思います。

今までも Vol.6 では白質病変と FMD の関連、Vol.9 と Vol.39 では血管性認知症だけでなくアルツハイマー型認知症とも内皮機能が関連していること、Vol.77 では脳血管疾患や認知症と内皮機能の関連について記事にしました。今号では脳血管疾患罹患歴のない方々での FMD と認知機能についてのレビューをご紹介します。

背景: これまでの研究で FMD が脳卒中患者の認知障害と関連していることが示されていますが、脳血管疾患の罹患歴がない場合における FMD と認知との関係は検討されていません。

方法: MEDLINE を使用して文献を検索しました。除外基準は次のとおりです：神経疾患（脳卒中など）、動物研究、内皮機能または認知機能の定量的測定なし、新生児研究、元データが非公開の論文です。認知テストは、実行機能、記憶（一般、作業、エピソード / 意味、言語、視覚）、包括的認知機能、情報処理速度、言語機能、精神運動速度、視覚空間能力の領域に分類されました。

結果: 検索により 700 件の論文が得られ、そのうち 2,791 人からなる 10 件の研究が基準を満たしていました。ほとんどの研究では、血管内皮機能障害は神経心理学的機能の低下、特に実行機能（効果量： $r = 0.07-0.58$ ）および作業記憶課題（効果量： $r = 0.19-0.39$ ）と関連していると結論付けられています。認知機能の他のサブドメインは FMD との関連性はありませんでした。視覚機能、情報処理速度、言語機能および包括的認知機能は FMD と関連していませんでしたが、これらを調査した研究はほんの一握りでした。

結論: 脳血管疾患の罹患歴がなくても、認知、特に実行機能と血管機能の間には関連性があります。公衆衛生上の観点では、認知機能低下の予測因子として FMD を計測すること、また、血管機能を改善する薬理学的および身体活動的介入による認知機能改善効果判定が重要となります。また、将来的には脳血流などの脳機能イメージングを組み合わせた研究も必要となるでしょう。 Psychosom Med.2016 Feb-Mar;78(2):192-207.

■ 第87回日本循環器学会学術集会での展示のご案内

展示会場では「FMD検査装置 ユネクスイーエフ」の最新モデルを展示いたしますので、ぜひ展示ブースにお立ち寄りください。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

会 期：2023年3月10日（金）～12日（日）

会 場：マリンメッセ福岡 **B 館**

